

異文化間コミュニケーション 研究法入門

Introduction to cross-cultural communications
§ research method

③非言語コミュニケーション

H20年度前期群馬大学教養科目

担当：園田智子（群馬大学留学生センター専任講師
留学生アドバイザー）

様々な非言語行動とそのインパクト (Non verbal communication)

- * 非言語行動による情報は、言語による情報よりもインパクトが強い。
- * 外国語を学ぶときでも、意識的に体系的に非言語行動を学ぶ機会は少ないので、コードを読み違えたり、意図しないコードを使用してしまうことも。

1. 表情
2. アイコンタクト
3. しぐさとジェスチャー
4. タッチング
5. 空間・対人距離
6. 時間感覚

1. 表情

「人の基本表情」は文化や民族に関わりなく理解される人類共通のものである。

ただし…文化によって、いつこの表情をだしていいかのルールはそれぞれ決まっている！？

☆日本人や皆さんの国の人々の表情の出し方を考えて見ましょう

- ・日本人はいつも笑っていて不気味だ？「怒り・不満」
- ・日本人はなにを考えているのかわからない？「微笑み」
- ・日本人は親が死んでも悲しまない？「悲しみ」
- ・ベトナム人は怒られるとにやりと笑う？「笑い」

2. アイコンタクト

☆やってみましょう☆

前後の人とペアになって何か話しながらその人の目を30秒、お互いに目をそらさずに見つめ続けてください。

Qそのとき、どんな気持ちでしたか？

Qそれはどうしてですか？

アイコンタクトも文化によって意味が違ってくることがあります。じっと見つめる…私に気がある？!

あなたの話に興味がある、ちゃんと聞いているというサイン怒られているときに視線をそらして下を向く…反省の態度？

なにかを隠している！怒られているときに相手の目をじっと見る…裏剣に相手の話を聞いている反省するつもりがないのか！

3. しぐさとジェスチャー

身振り手振りなどは異文化間のコミュニケーションでも言葉が通じないときにも有効に使える！

→一方、文化を超えて共通して使えるものと、そうでないものがあるため、意味が通じなかったり誤解されることもあります。

☆グループで話し合ってみよう☆

まず、しばらく無言で、よく使うジェスチャーを見せ合ってみよう。その後、3つに分けて考えよう。

- ①同じジェスチャーでも文化によって意味が異なるものは？
- ②他の文化圏では意味が通じないものは？
- ③文化によってタブーになるジェスチャー

ジェスチャー＝意図的に行うノンバーバルな身体動作

1) 表象(エンブレム)

意識的に使われ、同一文化圏では共通の意味を持つ身体動作。

例：お金、恋人

2) 例示動作(イラストレーター)

たいてい言葉とともに使われ、意味を強調したり描写したりする。

例：「こーんなに」「ほんの少し」「！！」

3) 調整(レギュレーター)

相手の行動を調整したり、制御したりする。

例：視線、あいづち、うなづき

4. タッチング

バーランド(1975)の研究から考えて見ましょう。

- 1) あなたはどのくらいボディタッチングを経験したか？
- 2) グループの中で話し合いましたか？
- 3) 1975年のアメリカ・日本の調査と皆さんのボディタッチを比較して気がついたことをまとめましょう。

5. 空間と対人距離

対人距離 = 人と人がコミュニケーションしているときの2人の間の距離

密接距離: 恋人や幼児と母親のような非常に親しい間柄の距離 (0~45cm)

固体距離: 友人と個人的なことを話しているときの距離 (45~122cm)

社会距離: 机を囲んですわりミーティングしているときの距離 (122cm~366cm)

公衆距離: 大教室での先生と生徒の間の距離 (366~762cm)

E.T.ホール(1966)

※相手との関係性や親密さの度合いによって異なっている。
文化的に対人距離の持ち方が異なっていることもある！

☆やってみましょう☆

1. 前後、左右でペアを見つけてください。
2. ①かなり近寄って話してみよう。→②かなり離れて話してみよう。→③心地いいと思う距離まで近づいて話してみよう。

Qどこまで近づいて話すことができましたか？

Qどのくらいの距離があなたにとって心地よかったですか？

Q離れて話したときどんな気持ちでしたか？

6. 時間の感覚

時間の感覚(時間の常識)も文化によって違うことがある。

* ○時といわれたら何時に行くのが「普通」か？

* どういう理由だと遅れても許されるのか？

* 相手が遅れたときに、ルーズな人間と思いつまらずに相手にとっての常識は何か？を考える

E.T.ホール(1991)

不確実性の回避の度合い = 「ある文化の成員が不確実な状況や未知の状況に対して脅威を感じる程度」

高い → 不安傾向が高い → 規則や慣習などを設け、あいまいさや不安を少しでも予測可能なものにしようとする。

低い → 不安傾向が弱い → 未知の状況、見知らぬ人やよくわからない考え方に対して寛容。安全危険、清潔不潔の区別はゆるやか。

* 時間の常識チェック *

- ・個人的な集まりには何時にいけないのか？
- ・仕事関係の約束時間はいつごろいくのがいいのか？相手の立場で変わるのか？
- ・遅刻したときの有効な理由は？
- ・締め切りは絶対なのか？目安なのか？守ってほしいときはどう頼めばいいのか？
- ・電話をかけていいのは何時か？
- ・起床時間、就寝時間の常識は？
- ・公共交通機関の遅れはどの程度か？どれがましなのか？